

IR HAND BOOK

第59期 事業のご報告

平成19年4月1日～平成20年3月31日

For the INDUSTRY



For the EARTH



For the HUMAN LIFE



私たちのビジネス



松田産業グループは、
「地球資源を有効活用し、業を通じて社会に貢献すること」
を企業理念に、
限りある資源・貴金属をリサイクルして有効活用を図る「貴金属事業」、
きれいな環境を次世代に引き継ぐ「環境事業」、
地球の豊かな恵み、食資源を安定的に供給する「食品事業」
の3事業を中心に展開しています。

経営の基本方針として「顧客重視」と「株主重視」を掲げております。
顧客ニーズを的確に把握し、顧客との共存共栄を目指すところに当社の発展の道がみえてくると考えております。資源リサイクル事業を通じた資源確保への寄与、貴金属加工製品の開発、販売を通じたエレクトロニクスをはじめとする先端産業発展への寄与、環境事業を通じた環境保全への寄与、食品事業を通じた食生活・食文化への貢献を目指し、不断の営業努力により、業容の拡大と適正利潤の獲得に努めていきます。

代表取締役社長
松田 芳明



2008年3月期の業績は、貴金属関連事業、食品関連事業の両セグメントで増収増益となり、売上高194,795百万円、経常利益8,863百万円と過去最高を記録しました。利益配分につきましては、安定配当の継続を基本に、内部留保とのバランスを考慮した株主様への利益還元を行ってまいります。

この方針に基づき、2008年3月期の期末配当金は12円とし、年間配当金は、中間配当金12円と合わせて対前期2円増配の24円といたしました。

次期の年間配当金は24円(中間配当金12円、期末配当金12円)を予定していますが、2008年8月末の株主の所有する株式を1株につき1.1株の割合をもって分割し、実質的な増配を図ります。

株主の皆様におかれましては、今後とも何卒一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

当誌に記載された業績見通し等の将来に関する記述は、決算短信が発表された2008年5月12日現在に当社が入手していた情報、および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、さまざまな要因により大きく異なる可能性があります。

私たちのビジネス

社長インタビュー	2
中長期の成長戦略	4
連結財務ハイライト	5
事業別概況	6
特集 Materials & Matsuda	9
連結財務諸表	10
Information	12



社長インタビュー

2008年3月期の業績はいかがでしたか。

Q1

2008年3月期の日本経済は、前半は企業収益の改善や設備投資の増加を背景に緩やかな回復が続きましたが、後半は、米国のサブプライムローン問題による世界的な金融市場の混乱や資源価格高騰の影響から景気が減速しました。

こうしたなか当社グループの貴金属関連事業は、顧客である半導体・電子部品メーカーの製造拠点強化の動きに対応し、タイ現地法人で貴金属製錬工程を新たに稼働するなど、営業体制の拡充を図りました。国内でも、半導体・電子部品業界のニーズに対応し、貴金属化成品の開発や精密洗浄サービスの機能強化などに取り組みました。食品関連事業では、世界的な穀物需要の増加や原油価格の高騰を背景に食品原料調達の困難さが増すなか、安心・安全な食材輸入を基本に、仕入先との関係強化、新産地開拓、新規の食材開発などに取り組みました。その一環として品質マネジメントシステム(ISO9001)の認証も取得しました。

これらの取り組みが寄与し、当期の売上高は194,795百万円(前期比16.3%増)、営業利益は9,088百万円(前期比22.3%増)、経常利益は8,863百万円(前期比7.7%増)、当期純利益は5,286百万円(前期比8.3%増)となりました。

事業別業績の詳細▶P6—8

中長期の成長戦略について教えてください。

Q2

今後も世界的に原油や貴金属など各種資源への需要が高まると予想されるなかで、当社グループは事業の拡大を通して社会の発展に貢献していきたいと考えています。

まず貴金属部門では、「東アジアNo.1のリファイナー」を目指し、国内外で電子部材、化成成品等の販売や貴金属リサイクル原料回収の拡大を図ります。タイ、フィリピン、シンガポールの現地法人に加え、昨年4月には中国に現地法人を設立しました。タイ現地法人では昨年6月に製錬工程を稼働させるなど、各拠点の強化にも努めています。今後も予想される中長期的なエレクトロニクス関連需要の増大に合わせ、更なる事業拡大に注力してまいります。

環境部門では、当社が所有する廃酸・廃アルカリ処理設備や全国の許認可網に基づく処理ネットワークを活用し、エレクトロニクス業界や化学・薬品業界からの集荷拡大など、関連法規制に則った営業強化をしていきます。

貴金属・環境処理の拠点である生産本部では、回収原料の量的拡大に対応した設備増

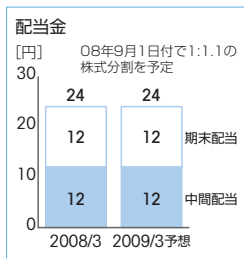
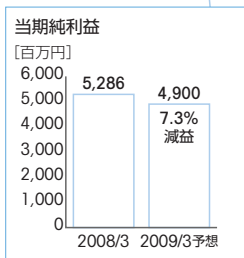
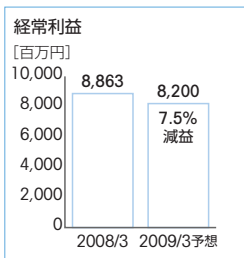
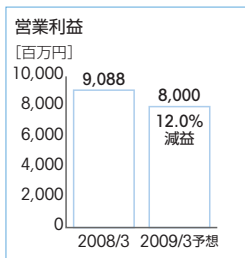
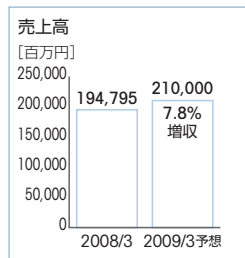
強を逐次実行するとともに、原料の多様化や回収貴金属の対象範囲の拡大に対応した製錬技術の向上を図ります。そのうえで、貴金属リサイクル原料の中長期的な展望のもと、より効率的な生産体制の構築を目指していきます。研究開発についても、エレクトロニクス業界のニーズに的確に対応した貴金属化成品の開発等に積極的に取り組んでいきます。さらに、排出物規制強化への対応や地球環境負荷軽減のニーズをふまえた廃液・排水・排ガスの適正処理技術の構築や、省エネルギーの推進などにも積極的に取り組み、地域と顧客からの更なる信頼獲得に努めていきます。 [中長期戦略の詳細▶P4](#)

2009年3月期の見通しはいかがでしょうか。

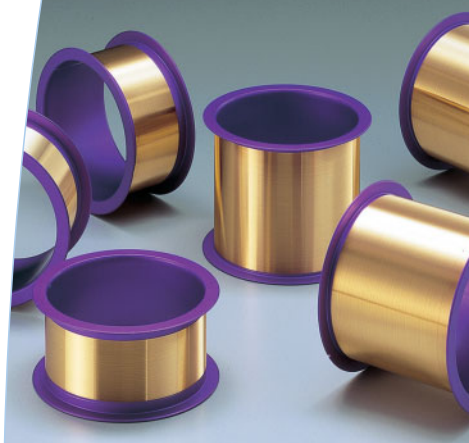
Q3

今後は米国経済の減速や原油価格の高騰の影響が懸念される状況にあるものの、アジア諸国の景気拡大は継続するものと思われます。当社グループは各事業領域で独自の営業網を活かし、業容の拡大に努めていきます。まず貴金属関連事業では、東アジア地域での貴金属リサイクルと貴金属化成品の販売など、半導体・電子部品業界に照準を当てた業容の拡大を図ります。国内でも生産体制の効率化や技術開発を継続的に行い、競争力の維持、強化に努めます。食品関連事業では、世界的な資源価格の高騰と国内消費の落ち込みという厳しい状況が続くと予想されるなか、顧客ニーズに対応した安心・安全な商品の安定供給を行うべく、品質管理の徹底や仕入先との関係強化、新産地の開拓などに努めます。2009年3月期はこれらの取り組みにより、貴金属、食品の両セグメントで増収を見込んでいますが、業容の拡大や内部統制強化などにより、販管費が増大する見込みです。そのため2009年3月期の業績につきましては、売上高210,000百万円(前期比7.8%増)、営業利益8,000百万円(同12.0%減)、経常利益8,200百万円(同7.5%減)、当期純利益4,900百万円(同7.3%減)と予想しております。

2009年3月期 連結業績見通し



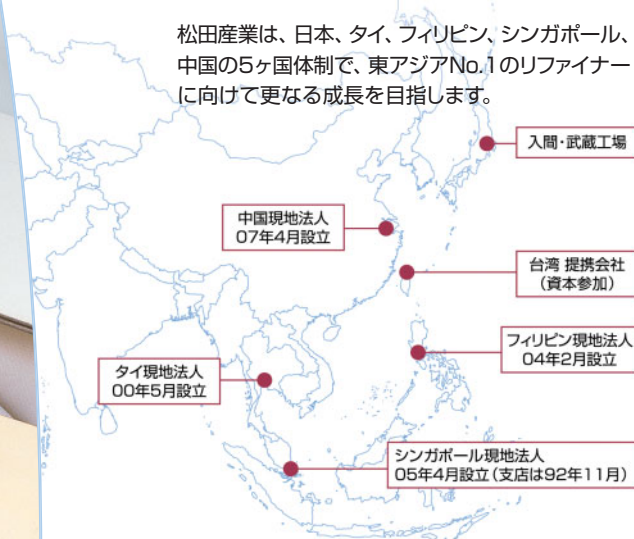
半導体の組立に使用される金ボンディングワイヤ



中長期の成長戦略

東アジアNo.1のリファイナーを目指します

松田産業は、日本、タイ、フィリピン、シンガポール、中国の5ヶ国体制で、東アジアNo.1のリファイナーに向けて更なる成長を目指します。



タイ現地法人 製錬設備の立上げ [07.6月]



リサイクルのスピードアップとグループ全体での処理能力の拡大を図ります

中国(蘇州)現地法人の設立 [07.4月]



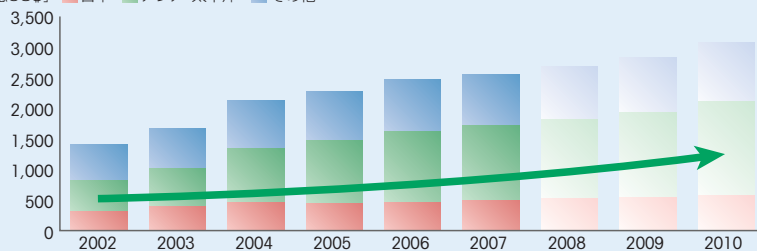
回収、販売の営業機能をメインに中国市場を開拓します

台湾提携先への出資、連携強化 [07.6月]

1992年にシンガポール支店を設立以来、タイ、フィリピンと拠点展開を進めてきました。タイ現地法人では従来の前処理設備に加え、2007年6月には製錬設備を稼働させました。中国では2004年に上海駐在員事務所を開設し、2007年4月に現地法人の営業を開始しました。今後も成長が見込まれる東アジア地域で、貴金属リサイクル、電子部材・化成品等の販売、精密洗浄サービスの総合的展開を図ります。

世界の半導体の需要動向

[億US\$] ■日本 ■アジア・太平洋 ■その他

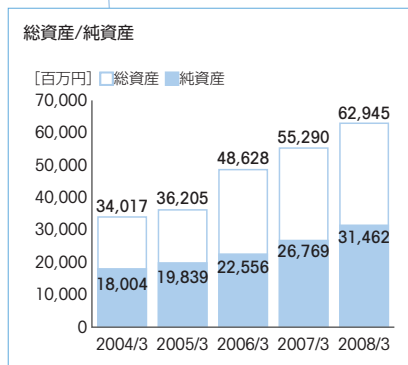
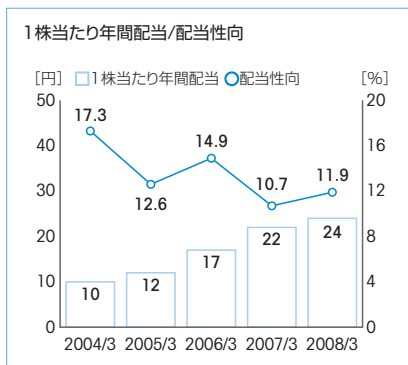
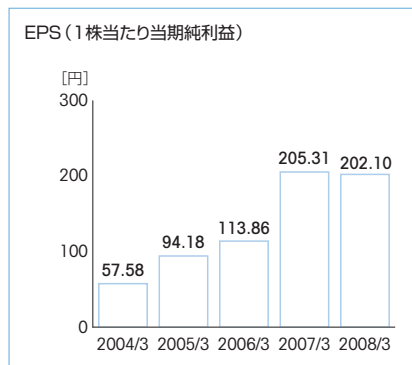
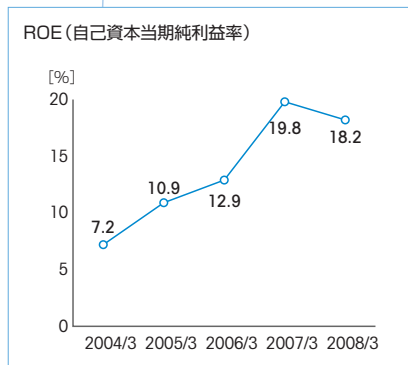
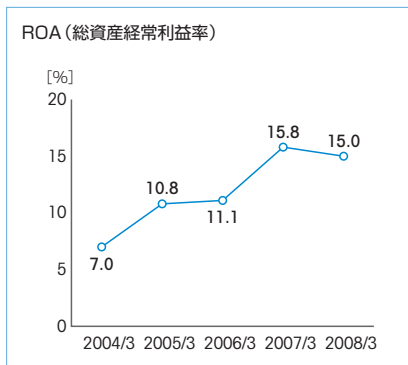
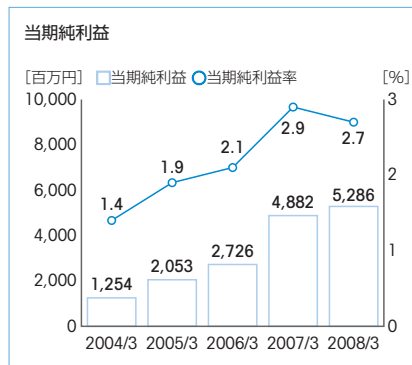
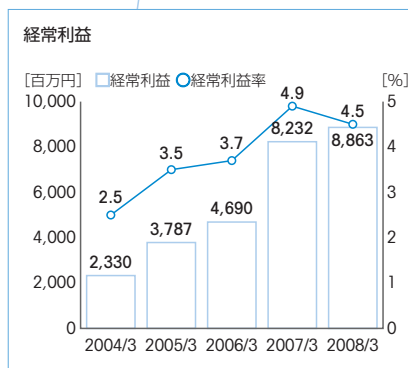
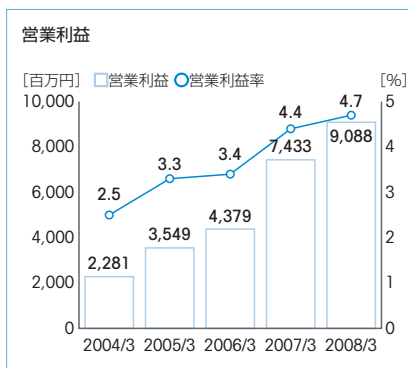
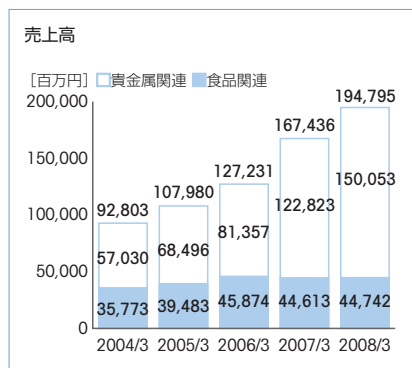


2002年～2007年に世界の半導体需要は年率約11%増加し、アジア・太平洋地域は年率約21%増加しました。今後も高い伸びが期待されています。

(注) 2008年以降は予測値
(出典) WSTS日本協議会
2008年春季半導体市場予測

連結財務ハイライト

2004年3月期～2008年3月期



※2006年3月1日付で1→1.1、2007年9月1日付で1→1.1の株式分割を実施

※配当性向は連結決算ベース

※2006/3以前の純資産に少数株主持分は含まれておりません

事業別概況

貴金属関連事業

77.0%

売上高
150,053百万円
(前期比+22.2%)

For the INDUSTRY

貴金属部門

貴金属リサイクル事業の主要対象業界である半導体・電子部品業界の生産活動は、第4四半期には減速感が見られたものの、期全体として、前期に比べ高水準で推移しました。そのため当社の貴金属リサイクル原料の回収量と貴金属化成品、金ボンディングワイヤなどの販売量は、前期に比べ増加しました。一方、写真感材業界からの銀の回収については、デジタル化の進展に伴い減少しました。主要取扱製品である金、銀、プラチナ、パラジウムの相場については、一時的な変動はあったものの概ね上昇基調が継続し、これらの製品の期全体の平均では、前期の平均価格を上回りました。

環境部門

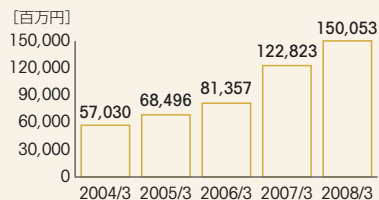
環境問題への全社会的な取り組みによる排出量減少傾向の中で、当社が保有する全国の収集・運搬ネットワークなどを活用し、環境部門の取扱数量は前期に比べて増加しました。またPCB処理装置の開発・製造を行う子会社のゼロ・ジャパン(株)においては、日本環境安全事業(株)(JESCO)北九州第2期工事へ処理装置の一部を納入しました。

先端技術ニーズに応える品質創造とリサイクルサービスの提供

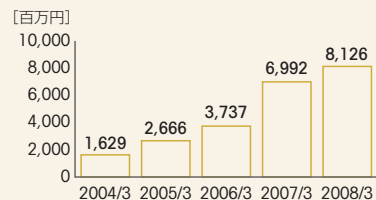
	事業分野	品目	主な取り組み
半導体・電子部品・環境エネルギー	回収・製錬	金	<ul style="list-style-type: none"> ▶金を中心とした増産体制を構築 ▶鉱源の多角化と回収率向上への技術開発を推進
		銀	
		白金族	
環境処理		廃酸・廃アルカリ	<ul style="list-style-type: none"> ▶全国をカバーする収集運搬許可網の活用 ▶自社処理設備と各地の処理ネットワークを構築
		PCBなど	
表面処理		貴金属化成品	<ul style="list-style-type: none"> ▶先端ニーズに応えるメッキ用化成品の開発・製造 ▶薄膜形成装置の治具の高品質洗浄、再生加工
		精密洗浄	
加工		金ボンディングワイヤ マイクロボール	<ul style="list-style-type: none"> ▶日鉄マイクロメタルによる高品質商品の開発・製造 ▶当社の営業ネットワークによる各種商品販売
		薄膜形成材料など	



貴金属関連事業 売上高推移



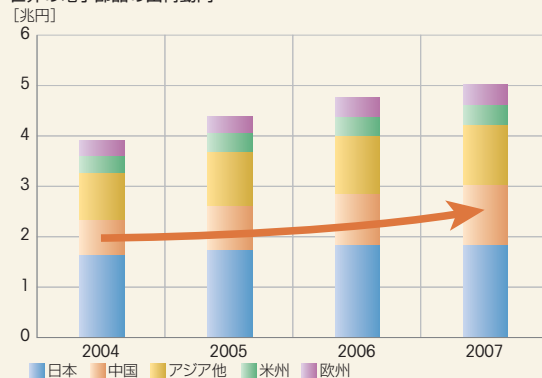
貴金属関連事業 営業利益推移



これらの結果、貴金属関連事業の売上高は150,053百万円(前期比22.2%増)、営業利益は8,126百万円(前期比16.2%増)となりました。



世界の電子部品の出荷動向



(出典)JEITA電子部品部会 電子部品グローバル出荷統計

2004年に比べ2007年は全世界で28.5%増加。
このうち日本・中国・アジア他で29.7%増加し、全世界の伸びを牽引しています。

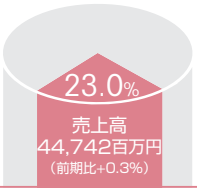




For the HUMAN LIFE

事業別概況

食品関連事業



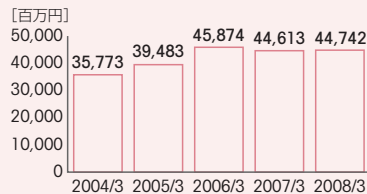
食品部門

原料価格の高騰を受けて食品加工業界が値上げを表明する一方、輸入食品の安全性や食品表示の問題などが消費者心理に大きな影響を与え、厳しい状況が継続しました。

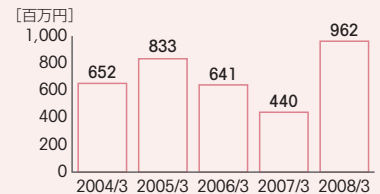
このうち、すりみなどの水産品では練り製品業界の生産量の減少により前期に比べ販売数量は減少したものの、売上高はほぼ前期並みとなりました。肉類、鶏卵などの畜産品では、主に輸入プロイラーの販売数量が減少し、売上高が減少しました。野菜類などの農産品では、外食産業向けに個別店舗配送を行う生鮮野菜物流センターの拡充により販売数量が増加し、売上高が増加しました。

これらの結果、食品関連事業の売上高は44,742百万円(前期比0.3%増)、営業利益は962百万円(前期比118.6%増)となりました。

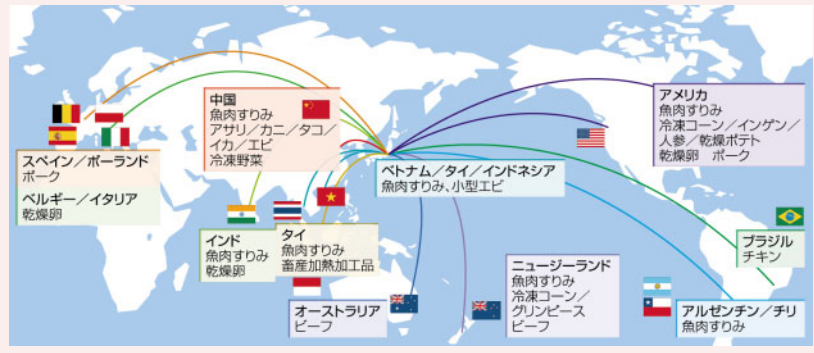
食品関連事業 売上高推移



食品関連事業 営業利益推移



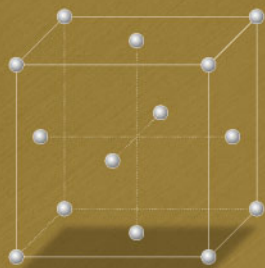
世界各国に広がる当社の仕入ソース



Au

金

紀元前から貨幣や装飾品として用いられてきた金ですが、最近ではエレクトロニクスに不可欠な素材として、需要がますます高まっています。



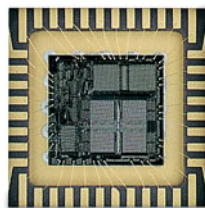
さまざまな性質を持つ金

世の中に流通する金の大半(4分の3程度)は装飾用に用いられています。これは見た目が美しいだけでなく、物質としての反応性が低く、金属アレルギーの心配が小さいことも理由とされています。またやわらかく加工しやすいことから化学工業品や医学などの最先端分野で数多く用いられており、金の活用シーンはますます広がっています。



金属アレルギーの心配が小さい金

半導体のリードフレームに用いられる金ボンディングワイヤ

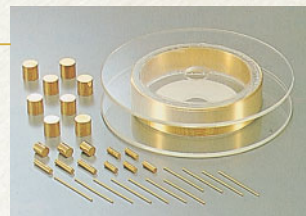


エレクトロニクスで広がる用途

金のもう一つの重要な性質として、電気伝導性が高いことがあげられます。電気信号をクリアにかつ高速で伝えることができるため、多くのエレクトロニクス製品に用いられています。また他の金属と異なり細く、小さく加工しても腐食しないため、半導体や電子部品、小型精密機器の素材としても重用されています。

松田産業の金関連ビジネス

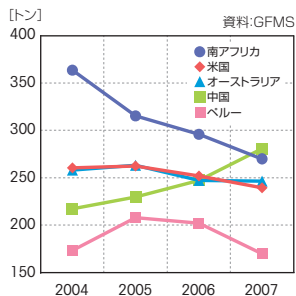
松田産業グループは創業以来、金と関連の深いビジネスを展開しています。金を含有するスクラップ原料を回収し自社で製錬、精製し、金地金、リードフレームメッキ用化成品などを生産しています。近年はエレクトロニクス、半導体、電子部品を中心に金の需要が高まっているため、増産体制をひいて金関連ビジネスを拡充しています。



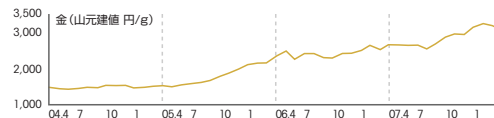
各種半導体用デバイス加工用に使用される金

Data of 金

主要産出国の産金量推移



金相場の推移



松田産業の金地金は東京工業品取引所、ロンドン金銀市場協会、ドバイ金・商品取引所にブランド登録され、高品質が保証された地金として各国で流通しています。



連結財務諸表

連結貸借対照表

(単位:百万円)

資産の部	前期	当期	負債の部	前期	当期
	平成19年3月31日	平成20年3月31日		平成19年3月31日	平成20年3月31日
流動資産	42,993	49,537	流動負債	26,715	29,392
現金及び預金	2,527	2,727	支払手形及び買掛金	11,002	12,880
受取手形及び売掛金	19,153	20,868	短期借入金	2,630	6,030
棚卸資産	12,850	17,888	1年内に返済予定の長期借入金	862	640
繰延税金資産	594	605	未払法人税等	2,482	2,001
未収入金	5,924	4,276	賞与引当金	519	590
その他	1,951	3,196	役員賞与引当金	19	—
貸倒引当金	△ 7	△ 25	未払金	6,393	4,289
固定資産	12,297	13,408	その他	2,805	2,960
有形固定資産	7,841	8,699	固定負債	1,805	2,090
建物及び構築物	2,112	2,287	長期借入金	1,030	1,307
機械装置及び運搬具	1,254	1,478	退職給付引当金	408	410
土地	4,146	4,752	役員退職慰労引当金	363	370
建設仮勘定	164	0	その他	3	3
その他	164	180	負債合計	28,521	31,483
無形固定資産	468	1,219	純資産の部		
のれん	64	38	株主資本	26,275	30,941
その他	403	1,181	資本金	3,559	3,559
投資その他の資産	3,987	3,489	資本剰余金	4,009	4,009
投資有価証券	2,653	2,256	利益剰余金	18,807	23,494
会員権	122	92	自己株式	△ 100	△ 121
差入保証金	482	497	評価・換算差額等	493	520
繰延税金資産	251	207	その他有価証券評価差額金	402	203
その他	700	696	繰延ヘッジ損益	△ 79	54
貸倒引当金	△ 223	△ 259	為替換算調整勘定	171	263
資産合計	55,290	62,945	純資産合計	26,769	31,462
			負債純資産合計	55,290	62,945

POINT 流動資産：業容の拡大を受けて主に棚卸資産と売上債権が増加しました。この結果、流動資産は6,543百万円増加しました。

POINT 負債の部：業容の拡大と設備投資により、借入金が長短合わせて3,454百万円増加しました。この結果、負債合計は2,962百万円増加しました。

POINT 純資産の部：当期純利益の増加により利益剰余金が4,686百万円増加しました。自己資本比率は50.0%となり、前期末の48.4%に比べて1.6ポイント増加しました。

連結損益計算書

(単位:百万円)

	前期	当期
	平成18年4月1日～ 平成19年3月31日	平成19年4月1日～ 平成20年3月31日
売上高	167,436	194,795
売上原価	149,652	174,752
販売費及び一般管理費	10,351	10,954
営業利益	7,433	9,088
営業外収益	881	254
営業外費用	82	480
経常利益	8,232	8,863
特別利益	44	41
特別損失	63	41
税金等調整前当期純利益	8,213	8,863
法人税、住民税及び事業税	3,485	3,498
法人税等調整額	△ 158	78
少数株主利益	4	—
当期純利益	4,882	5,286

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前期	当期
	平成18年4月1日～ 平成19年3月31日	平成19年4月1日～ 平成20年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 142	△ 262
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 703	△ 2,463
財務活動によるキャッシュ・フロー	784	2,834
現金及び現金同等物に係る換算差額	88	87
現金及び現金同等物の増減額	26	196
現金及び現金同等物の期首残高	2,501	2,527
現金及び現金同等物の期末残高	2,527	2,724

POINT

POINT

連結キャッシュ・フロー:営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益が8,863百万円となりましたが、売上債権や棚卸資産、法人税等の支払額などが増加し、△262百万円となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、主に固定資産の取得により△2,463百万円となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、借入金の増加などにより2,834百万円となりました。

2009年3月期
第1四半期決算は、
2008.8.12 16時
に当社IRサイトで
発表します。



<http://www.matsuda-sangyo.co.jp/investment/index.html>

連結株主資本等変動計算書

(単位:百万円)

当連結会計年度(自平成19年4月1日 至 平成20年3月31日)

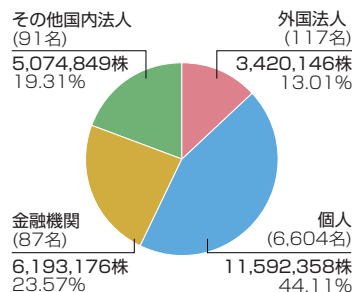
	株主資本					評価・換算差額等				純資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	繰延 ヘッジ 損益	為替 換算調 整勘定	評価・ 換算差額等 合計	
平成19年3月31日残高	3,559	4,009	18,807	△ 100	26,275	402	△ 79	171	493	26,769
連結会計年度中の変動額										
剰余金の配当			△ 599		△ 599					△ 599
当期純利益			5,286		5,286					5,286
自己株式の取得				△ 21	△ 21					△ 21
自己株式の処分										—
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額(純額)						△ 198	133	91	26	26
連結会計年度中の変動額合計	—	—	4,686	△ 21	4,665	△ 198	133	91	26	4,692
平成20年3月31日残高	3,559	4,009	23,494	△ 121	30,941	203	54	263	520	31,462

Information

株式の状況 平成20年3月31日現在

株式の総数	40,000,000株
発行済株式総数	26,280,529株
株主数	6,899名

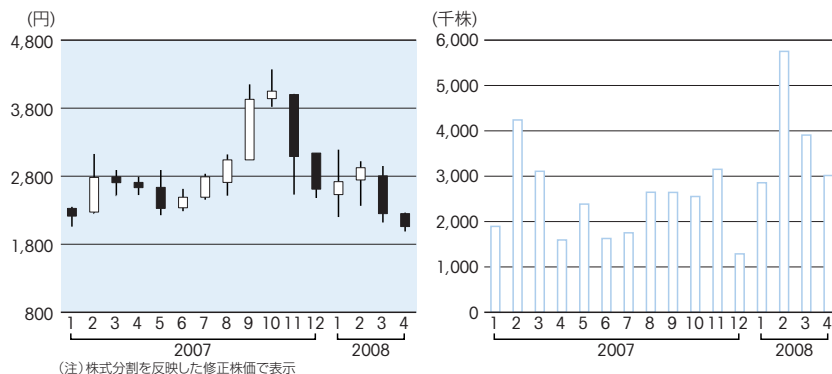
株式の分布状況 平成20年3月31日現在



会社概要 平成20年3月31日現在

商号	松田産業株式会社
本社所在地	東京都新宿区西新宿1-26-2
設立年月日	昭和26年6月18日
資本金	3,559百万円
従業員数(連結)	816名(3月31日時点)
主な事業内容	貴金属回収製錬、 貴金属地金・電子材料他の販売、 食品加工原材料の卸売、 産業廃棄物の収集・運搬・処理
会計監査人	新日本監査法人

株価・出来高推移



役員一覧

平成20年6月27日現在

代表取締役社長	松田 芳 明	取締役	片山 雄 司	取締役	伊藤 康 之
専務取締役	對馬 浩 二	取締役	船本 正 則	監査役(常勤)	鈴木 幸 一
専務取締役	徳永 庸 夫	取締役	佐々木 隆 茂	監査役	谷 哲 夫
常務取締役	細田 顕 治	取締役	清水 克 之	監査役	石原 猛 男
取締役	田代 芳 孝	取締役	山崎 隆 一	監査役	熊坂 博 幸

グループ会社概要

平成20年3月31日現在

	会社名	事業内容
貴金属関連	マツダ環境(株)	貨物自動車運送
	北海道アオキ化学(株)	産業廃棄物の収集・運搬および処理、金属原料の回収・販売
	日本メディカルテクノロジー(株)	金属原料の回収・販売
	ゼロ・ジャパン(株)	真空加熱分離装置(VTR)の開発・販売
	Matsuda Sangyo (Thailand) Co., Ltd.	金属原料の回収・販売、貴金属製商品の販売
	Matsuda Sangyo (Philippines) Corporation	金属原料の回収・販売、貴金属製商品の販売
	Matsuda Sangyo (Singapore) Pte. Ltd.	金属原料の回収・販売、貴金属製商品の販売
	松田資源利用(蘇州)有限公司 (株)日鉄マイクロメタル	金属原料の回収・販売、貴金属製商品の販売 電子工業用金属製品の製造・販売
食品関連	マツダ流通(株)	貨物自動車運送及び食品加工原材料の販売
	広島マツダ食品(株)	食品加工原材料の販売

事業所

平成20年3月31日現在

● 貴金属事業部

本部／仙台／水戸
東京／入間分室
川崎／甲府
長野／名古屋
大阪／金沢
福山／福岡
鹿児島

● 環境事業部

本部／青森
仙台／埼玉
東京／千葉
神奈川／横浜
静岡／名古屋
大阪／福山
福岡

■ 海外拠点

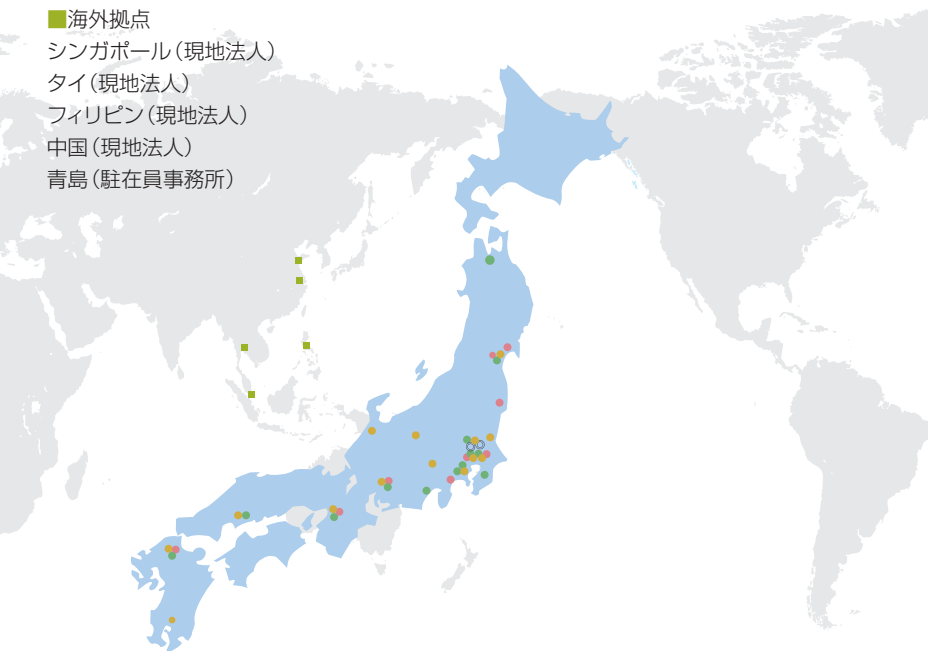
シンガポール(現地法人)
タイ(現地法人)
フィリピン(現地法人)
中国(現地法人)
青島(駐在員事務所)

● 食品事業部

本部／仙台
塩釜／いわき
東京／小田原
名古屋／大阪
福岡
品質保証室
外食営業課

◎ 生産本部

武蔵工場
武蔵第二工場
入間工場
入間第二工場
開発センター



松田産業株式会社

証券コード：7456

東京都新宿区西新宿1-26-2
新宿野村ビル6F

TEL.03-5381-0001（代表）



2009年3月期の IRサイト更新予定	2008.8.12	16時	第1四半期決算発表
	2008.11.14	16時	第2四半期決算発表
	2009.2.12	16時	第3四半期決算発表

<http://www.matsuda-sangyo.co.jp/>

株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂7丁目10番11号 TEL 0120-232-7111 (通話料無料)
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
上場取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.matsuda-sangyo.co.jp/investment/ (ただし、電子公告によることが出来ない事故、その他のやむを得ない事由が生じた時には、日本経済新聞に公告いたします。)

お知らせ

■株式に関するお手続き用紙のご請求について

株式に関するお手続き用紙(届出住所・印鑑・姓名等の変更届、配当金振込指定書、単元未満株式買取請求書、名義書換請求書等)のご請求につきましては、上記株主名簿管理人にてお電話ならびにインターネットにより24時間受け付けておりますので、ご利用ください。

通話料	0120-244-479 (三菱UFJ信託銀行証券代行部)
無料	0120-684-479 (三菱UFJ信託銀行大阪証券代行部)

インターネットアドレス <http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

なお、株券保管振替制度をご利用の株主様は、お取引口座のある証券会社にご照会ください。

■配当金のお受取方法について

振込口座をご指定されておられない株主さまには従来、「郵便振替支払通知書」にて配当金をお受取り頂いておりましたが、平成19年10月1日に日本郵政公社が民営化されたことに伴い、「郵便振替支払通知書」に代わって「配当金領収証」にて配当金をお受取り頂くこととなりました。(従前のとおり、もよりのゆうちょ銀行または郵便局の貯金窓口にて配当金をお受取り頂くことができます)

■「株券の電子化」が2009年1月*から始まりです

株券の名義がご本人以外になっている場合、株主としての権利(株式価値・配当金の受取りなど)を失う場合があります。お手持ちの株券裏面の「株主名」をご本人名義かを確認いただき、ご本人以外の名義の場合は株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)にご連絡ください。

*正式実施日は未定ですが、2009年1月を実施目標として準備が進められています。